



LINDAからのIPニュース

第97号
2016年11月

庭園

北京林達劉知識産権代理事務所

所長 劉 新宇¹



「庭園」への誘い

皆様、こんにちは。実りの秋10月はあっという間に過ぎ去り、鮮やかな紅葉が目映える頃になりました。この美しい季節に、親愛なる友人の皆様へ、そして、自分自身に一篇のエッセー「庭園」をプレゼントしたいと思います。このエッセーは、今年初秋の頃より構想を温めて、2ヶ月の時間をかけて初稿を書き上げ、その後大幅に、半分以上の内容を削除すると共に、新たに溢れ出る思いをプラスして……、何回も修正や手直しをして、完成させ、ようやく皆様にご紹介できる日を迎えることができました。このエッセーは、私が今年1月に天命を知る50歳を迎えた時から現在までの10ヶ月の切実な思いをまとめ、自分自身の変化や必要によって必然的に起こった「チェンジ」や「心のひだ」を記録し、その真実を皆様にご報告するものです。

あと、2ヶ月すると満51歳を迎える私は、気持ちますます静かに、穏やかになりました。ですから、多くの友人と胸襟を開いていろいろ交流することができる今の時代に、心より感謝しています。現在、私たちは、WeChatやさまざまな方法で、多くの友人と言葉を交わし、心を通わすことができます。私も最近、毎朝、「Good Morning」とWeChatの友人に挨拶して、生活におけるLindaの姿や思いを紹介しています。私は、このエッセーを通じて、2003年に一人で果敢にも事務所を開き、その当時まだ血気盛んで、短気であった私が、どのようにして徐々に皆様と穏やかに、ウェットに富んだ思考ができるようにチェンジすることができたのかを、また自分自身の欠点を素直に受け入れ、生まれ変わることをできたかを皆様にご紹介できればと思います。

1. 生涯の夢

ますます多くの人が今、一体どのような人になりたいのか、悔いのない人生を過ごすためにどのように生きるべきなのかを模索するようになっています。たしかに、これは、さほど複雑なことではありませんが、私たちが生涯にわた

¹劉 新宇：林達劉グループ社長 北京林達劉知識産権代理事務所所長 中国弁理士

り考えなければならない哲学的な問題なのかもしれません。

私たち一人一人は、ある意味において、大自然と深く結びついている生命体です。もし、あなたは、自分をある動植物に例えたらと問われたら、誰でも最も生まれ変わりたい自分だけの「スピリット」を見つけることができるのではないのでしょうか。

私の知り合いに、動作が鋭敏で、意志が強靱な一人の青年がいます。彼はいつも自分がヒョウになることを想像し、日々の生活で自分の精神状態を、ヒョウがアフリカの草原を走り回る時の状態に調整するのが大好きだそうです。また、私の知り合いの優秀な特許弁理士は、自分を雄ライオンのようでありたいと思い、百獣の王として動物界に君臨して、自分が口にしたことを必ず実行するライオンのように、鋭い洞察力を持ち、どのような些細な変化でも見落とすことはありません。



このように、自分をある動物になることを想像する方は多いようですが、ある植物に例える方も、特に女性には多いのではないのでしょうか。

かつて、女性を牡丹、梅やスイセン等に例えることがよく有りましたが、混沌とした現代社会において、多くの女性は、愛する人の心の中で永遠の美を讃える一輪のバラの花でありたいと願っています。ですから、バラは愛情のシンボルとなっているのです。

私たちは、誰もが天真爛漫な少女時代、開花の日を待つ蕾のような青春時代を過ごしますが、女性として、一番のターニングポイントは、母として大地に根を張ることではないのでしょうか。母となった女性は、母乳で我が子を育て、慈愛に満ちた眼差しで家族を守り、そして我が子が新しいファミリーを築き旅立つ時まで見届けなければなりません。女性はその人生において、獲得と喪失を繰り返しながら、そのミッションと成長を完成させているのです。

女性をバラで形容したら、女性の生涯は男性より、苦難に満ちたものと言えます。ある一人の男性を一匹のヒョウや一頭のライオンに例えるなら、確かに彼ら勇士は、草原や森林の環境の変化や外界の強敵による脅威に脅かされ、生死の危機を彷徨い、一族存亡の危機に直面しながらも、命がけで最後の最後まで戦い抜かなければなりません。

男性のこのように最後まで命がけで戦い抜く偉大な行為に対して、花のようにたおやかな女性が直面するのは、命の衰えによる寂しさとやるせなさなのです。この寂しさとやるせなさによって、女性は衰えるとともに、人生についてより深く考えるようになるのです。

すでに天命を知る年齢になった私は、天真爛漫な子供時代、活気に満ち、想像を逞しくしていた青春時代を過ぎた後、中年時代のさまざまな試練も体験し、女性として40歳から50歳の間に避けて通ることのできない身体や心の

アンバランスな時期も過ごしてきました。そして、私は今、親愛なる皆さんに、人生の適切な時期に、自分の心理状態や家庭における責任や社会における責任を全うすることができるように自己の能力を調整することは、自分ですべきであることをお伝えしたいのです。調整することで、この調整が自分や他人にとって如何に重要であるかということを確認できるようになります。そして、このような調整の過程において、まだ不十分で改善が必要なところがあり、自分の人生をより一段高いレベルに引き上げる必要性を再認識できるのです。

調整は自発的に行うもので、自ずから生じるものです、いつも自分自身を労わっていたら、この感覚を理解できると思います。生活や仕事において、外から与えられるプレッシャーを自ら増大させることなく、周りの環境に恨み言を言わないのが、自分への最上の賛美であり、自分の成長にもつながります。なぜなら、それこそが、強く優しい心の証だからです。

私たちは多くの場合、外界の観察にひまどり、自己に対する繊細な観察が疎かになりがちです。たくさんの季節が過ぎ去った後、振り返ってみると、歳月を随分無駄にしてしまい、自分自身がその浪費の中に耽溺してしまったことを後悔することがあるのではないのでしょうか。

2. 命の延伸

このエッセーでは、女性である私の立場で語っていますが、男性の読者の皆さんも女性の変化を理解することから、ご自分の変化を考えてみてはいかがでしょうか。

青春時代の真っ只中にある女性は、自分の溢れんばかりの青春の活力に驚かされ、限りない憧れの中に身を任せています。

誰も、「一日中夢見る夢子さん」であることが許された年月があったのです。そして、それは少女時代の特権で、決して悪いことではなく、自然なことだったのです。その頃の私たちは、世界は自分たちの思い通りになると思っていましたので、将来についてさほどじっくり考えることはなかったのではないのでしょうか。

ですから、若い女性の鼻っ柱が強いのは、当然のことなのです。また、若い女性は、排他的な心も持ち合わせているものです。そのため、以前は若い女性だけで強くて一致団結したチームを構成することは、まるで奇跡のように思われていました。

私は、お付き合いのあるドイツの弁理士さんが、「林達劉事務所には、綺麗な女性がどうしてそんなに多くいらっしゃるのですか。そして、皆でチームによる協力体制も構築して、お互いに相手の長所や素晴らしさを認め合っていますが、これはドイツではなかなか難しいことですよ。ドイツの女性は、自分の夫が街で他の女性に目を奪われることすら受入れられませんよ。」と言われるのをよく聞きます。

そのような時、私はいつも冗談半分で、「私たち中国の女性も、自分の夫が美しい女性に目を奪われるのは嬉しくありませんが、自分自身は、積極的に美しい女性を見て、美人の美しい所以を学んでいるのですよ。」と答えています。

実際に、世界中の女性は皆、花ファミリーのメンバーですから、似ているところがあるのです。ただ、その開花時期、品種、性質や強さが異なるだけです。そして、私たちは誰も、花の開花や凋落に一喜一憂しているのです。

しかし、これは、私たち女性の運命で、自然界で咲く花と同じように、私たちも自分の運命をゆっくりと受け止め、その使命をやり遂げることも定めなのです。

特に、自分の心や身体の変化を受入れる時、心を開くことが必要です。それは、必ずしも容易なことではありませんが、その時が来たら、自らの心を可憐な一輪の花から、たくさんの花が咲き誇る庭園にチェンジさせるのです。

私自身も45歳になってからしばらくの間、難しい自己調整の段階を経験しました。その過程において、私は、自分



の体内の器官から発せられるさまざまな「声」に耳を傾け、自分のさまざまな能力や記憶力の低下を事実として謙虚に受止めました。同時に、自分が時として、新しい事柄に対してさほど興味を持ってなくなり、外からのチャレンジも気づかないことがあることも、仕方がないと思えるようになりました。

ところが、このような状況において、自分がこのまま朽ち果てたくなければ、物事を見る視点、特に自己管理の仕方を適時にチェンジさせる必要があるのです。

私たちは、長年慣れ親しんだ庭園の中で最も美しさを誇る一輪の花から、自分より美しいたくさんの色とりどりの花を開花させる庭園に生まれ変わるのです。こうしてこそ、女性は、個人を享受する状態から母として子を育てる状態に変われるのです。

少女から大人の女性に成長を遂げ、人生を共に歩む伴侶に巡り会い、結婚して、出産育児を経て母になることは、女性の人生における最大のターニングポイントですが、その過程を経さえすれば、誰もが一輪の花から庭園に心を昇華できるわけではありません。

一輪の花から庭園へのチェンジは、人としての人格の昇華です。この過程は、個人の生活環境と大きな関係のある無意識の状態から来ることが多いのです。例えば、両親、夫、子供からの無償の愛に包まれている女性は、心に余裕のあるどっしりした母親になれるのです。

このようなチェンジは、心に刻みつけ生涯忘れられない特別な経験による突然の変化である場合もあります。この時、この花は、自分の命を延伸させるために、このチェンジは必然であったということを意識できていたかもしれません。

「Lindaも一輪の花から色とりどりの綺麗な花が咲き、青々とした草木が茂っている庭園に変身を遂げましたね。」とご想像いただける皆さんに、私のチェンジも、これまでの生活と仕事からさまざまな事を学んでようやく実現できたことをお伝えしたいと思います。

私自身、10ヶ月の妊娠期間も、出産も、子育ても経験したことはありません。林達劉事務所の若い所員を自分の子供のように愛し、大切に思っていますが、ほとぼしる母性にはやはり欠けていると自覚しています。女性には、子供を守り育てようという母性が必要ですので、母性を身につけ、私の庭園をより輝かせたいと思っています。女性は、

母性の持つ深い意味を本当に理解できてこそ、最も偉大な心をより理解できるのです。

3. 庭園へのチェンジ

庭園に生まれ変わる過程は、決して容易なことではありません。私は2002年の頃、ある中国の特許事務所の東京ブランチの代表として、日本で働いていました。その頃のある日、私の勤務先まで来てくれたある日本の友人が、オフィスに飾ってあったいろいろな緑の観葉植物を見て、「よく手入れが行き届いていますね。」とってくれました。

当時まだ36歳だった私は、少し気が急いで欲張りなところもあり、「自宅でも、花をいっぱい育てたいと思っているのよ。」と言ったところ、友人は即座に、「Linda、花を育てることは少し先送りしたらどうかしら。貴女にはまだ早すぎると思うのよ。」と率直にしてくれました。その当時、私は彼女から言われたことの真意がよく分かるような女性に成長していませんでしたので、友人の顔を見ながら自分自身の凹んだ気持ちを悟られないように、何気なく話題を変えました。



その後、私は2012年に、私と同じ北京師範大学日本語科卒業の先輩と一緒に、イギリスの湖水地方とコッツウォルズへ旅行しました。その旅で、私は、イギリス人の花に対する理解や心遣い、自宅の庭園に対する行き届いた、繊細な手入れ、そして英国式庭園への愛情とこだわりをしみじみと感じました。そして、私は、庭園の観賞を通して、ようやく10年前の友人の言葉の意味を理解できました。

私はゆっくり自分の心の中でいろいろ考えてみました。そして、庭園を育てられる人は、心の中にも庭園を持つべきではないかということを感じたのです。自分の心に庭園を育てている女性は、優しく情が深く、温かな感情が溢れているはずで、自ら雨と化して土を潤し、庭園を慈しんでいるのです。

そして、心に美しい花が咲いていない人は、庭園を育てられるはずがないことも悟りました。

家庭の主婦として、彼女は自分の家の庭園や庭の隅々まで、心を込めてデザインします。デザインする時、庭に足を踏み入れたお客さんが、まず最初に目を留めるのは、この木なのか、その花なのか、それともあの低木なのかとじっくりと考えます。彼女の心の中には、一番相応しい配置はすでにあるのです。

家庭の主婦の心には、庭において、大黒柱である夫がどの大木で、一生懸命な息子がどの可愛い木で、愛しい娘がどの可憐な花なのか、そして自分はこの庭をどのように見守っていけばよいのか、はっきりと描かれています。一つの庭のデザインは、家庭の主婦の人生の真髄をとらえた描写となる時もあるのです。

私たちが男性に対して、外界からのさまざまな物事を全て包みこんでしまうくらい寛大で、私たちが引き起こしてしまう不愉快な思いや思い違いを全て受け入れてくれるくらい奥深い心を有する森になって欲しいと願っています。

そして、私たち女性には、花開く年齢になったら花を開花させ、生まれ変わるべき年齢になったら勇気を持って自分をチェンジさせて欲しいと思っています。その時、心の奥底に愛情の花、理解の花、寛容の花を育てる十分な雨と

露と豊かな土壌に満ち満ちているかをいつも心で感じて欲しいのです。このようなさまざまな花が私たちの心の奥底で開花する時にこそ、より華やかな彩りの風景が私たちの目の前に広がるのです。

華やいだ雰囲気にもまれたリビングのテーブルの上の素敵な一輪挿しに飾られたその庭園で一番綺麗に咲いている一輪の花が、主人と友人が文化を語り、人生を語っているのを、耳を澄まして聞いているのを想像してみてください。

しかし、庭園は特別で、永遠に大自然の中に留まっているのです。

昼の日差しや夜半の露霜といつも空間を共有している庭園は、大自然からの試練も柔軟に受入れています。私たちは庭園に生まれ変わるとともに、世の中のさまざまな苦難や難儀と永遠に共にいることも、切実に知るべきです。大樹を支え、灌木を見守り、土壌を肥沃にして、来る年に大輪の花を咲かせることは、私たち庭園がすべきことなのです。

ですから、一人の女性が庭園に生まれ変わると、その肩に担う責任はより大きくなりますが、心はますます豊かに満ち溢れ、土壌もより肥沃になることで、とても美しい花を誕生させているのです。

林達劉事務所と共に歩んできた13年間の歩みの中で、事務所の仲間、クライアントの皆様、友人そして家族に大切に育まれてきた私の心は、いつの間にか「庭園へのチェンジ」という人生転換を叶えました。

私は、この庭園の中で、一番相性がよく共に輝く花と樹木のペアを見つけることができるようになり、その最高の景色を私の心の中で体現しつつあるのです。

4. お互いの庭園をより美しくするために

私はよく、「もし貴女が小ぶりな木を鑑賞したければ、日本へ行きましょう。たっぷりの雨水で愛で育まれた多くの木が女性のようにみずみずしいのは、日本の面白いところの一つだと思いますよ。一方、大きく、男性のように逞しく荘厳な樹木を楽しみたいのなら、中国東北地方の北朝鮮との国境地帯にある長白山に行ってみてください。」とよく友人に冗談を言います。



確かに、「一方水土養育一方人(風土が人柄を育てる)」という諺のように、女性もそうですが、一人一人の性格、気質や美しさは、その育った気候や風土と大きく関っているのです。一方、異なった地域の女性が、共通した美しさを有するとしたら、私は、女性の3つの年齢段階における異なった美しさをお教えしたいです。

1つ目は、17、18歳の頃の女の子としての初々しい美しさです。その頃の女の子は、高校を卒業して、大学に進学した頃、青春の門をくぐり、青春の息吹が弾け、澁刺とした美しさがあります。

2つ目は、初めて母となった女性の美しさです。この時期の女性は、母となった堂々と凛とした美しさに輝いています。母として、我が子が2、3歳になるまでは、一番苦勞の絶えない時期かもしれませんが、子供との蜜月時代を存分楽しめる時期でもありますので、女性の美しさが最高に輝く時です。

3つ目は、子供が成長して、親元を離れ、自分の人生を歩み始め、再び夫との二人の生活に戻る頃の女性の美しさです。この頃の女性は、改めて夫と向き合い、2度目の恋人時代を楽しめます。この時、女性はアラフィフにさしかかり、髪には白いものが混じり、肌にも皺が刻まれているでしょう。しかし、夫ともう一度手を携えて、お互いに労わり合いながら生活や旅行を楽しみ、内面から美しさが溢れる頃です。

この3つ目の段階における女性の美しさは、私自身が多くの友人のことをじっくり観察してまとめたものです。彼女たちは、プライベートでも、仕事でも輝いている素敵女性です。ある女性の心の中に花に溢れる庭園があれば、彼女の周りの人々も、この庭園をより美しくするために、一生懸命努力しなければなりません。この年代の女性を大切にすることは、彼女の周りの家族や友人にとっての義務でもあるのです。

私たちは時として、自然環境や社会環境に恨み言を言うこともありますが、現代社会において、自然環境は神から与えられたものであるだけでなく、社会環境や人文環境と離れることなくいつも一緒に存在しているものです。工業が今日のように発達していなかった19世紀半ば頃までは、自然環境、社会環境と人文環境がそれぞれが別々に存在していました。良好な人文環境を有する人は、良い自然環境や社会環境も享受できたかもしれませんが、それらの恩恵は被ることができたのは、当時の上層階級の使用人などの限られた人であったので、必ずしも良い社会環境と人文環境を有していたわけではありません。



その後、日進月歩で近代化が進んだこの100年において、自然環境、社会環境と人文環境が融合されてきたため、私たちは自分を取り囲む環境について語る時、その環境に対して、無責任でいることができないのです。

PM2.5の汚染が深刻な北京の環境について語る時、私たちは、日本やヨーロッパのような澄み切った青い空と白い雲を羨ましく思い、旅をすることで、一時的にでも自分の生活環境から逃げ出そうとします。しかし、これは、一時的なことに過ぎず、私たちは自分の故郷から永遠に離れることはできません。自分の故郷と外国を比べて、自分たちの生活環境に不満を感じて、そのギャップから、外国に住む皆さんに対して素直になれない気持ちが生じるのです。

環境を整備するために、私たちは自分の環境を整備することから始めなければいけないのです。心の中の庭園造りは、自分自身だけではなく、周囲の多くの人々も巻き込んで行うものです。多くの場合、自分の庭園造りに対する姿勢は、周りの人々の協力体制にも係ってきます。

北京の環境整備は、もちろん行政機関が主導で行うべきですが、私たち一人一人にも責任がないわけではありません。公共交通機関を積極的に利用したり、ゴミ分別をこまめに行ったり、エコ電化製品を使用したりすることで、私たちの大切な身近の環境に対する毅然とした態度が反映されるのです。

これらの問題において、環境に対する関心や尊重の習慣を養えば、自分の生活がリラックスでき、心の中の庭園、生活における庭園も皆から大切にされることに気づくはずですよ。

そして、私も、あなたも、隣人も皆一人一人が心に庭園を持てば、庭園は多くの仲間にも囲まれ、一人ぼっちにはなりません。皆がお互いに労わり、尊敬し合い、皆の庭園はより美しく開花できるのです。

私たちは誰しも、生活がますます美しくなることを願っています。また、もしよろしければ、私が自分の庭園に、どのような花を咲かせればよいのか、どのような樹木を育てればよいのか、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。私の庭園が、皆様にとって心のオアシスになることを願っています。

最後になりますが、皆様のビューティフルライフを心より祈っています。



(今回のIPNEWSに掲載している写真は、リンダ所長が英国で撮影したものです。)

責任者: 代表取締役 弁護士 弁理士 魏 啓学 (Chixue WEI)

社長 弁理士 劉 新宇 (Linda LIU)

担当者: 所員 林 知子 (Tomoko HAYASHI) 張 輝 (Ashley ZHANG)

林達劉グループ 企画室 (Business Development Department, LINDA LIU GROUP)

〒100013 中国北京市東城区北三環東路36号 北京環球貿易中心C座16階

Tel: 86-10-5825-6596 (WEI) 86-10-5825-6089 (LIU) 86-10-5825-6366 (代表)

Fax: 86-10-5957-5201 (代表)

E-mail: ipnews@lindaliugroup.com

Website: <http://www.lindaliugroup.com>